

# 松島周平さん

知美さん

first-hand代表・ヒトトキ主宰

## PROFILE

SHUHEI・TOMOMI  
MATSUSHIMA

2006年に家具工房『first-hand』設立。2010年に稲武へ移住後、2015年にカフェ『ヒトトキ-人と木-』を、2021年には歩いて2分の場所に一日一組限定の贅沢な宿泊室『hibi』をオープン。

松島夫妻の活動場所

ヒトトキ-人と木-



愛知県豊田市稲武町タヒラ8-1  
<https://first-hand.jp>

大人が楽しんでいる姿を見せる…  
帰ってくる場所は  
稲武であってほしいから。



丁寧な暮らしを大切に、地元で採れた材料にこだわり、夫妻で家具や暮らしの道具を製作。

遊び場がなければ作る！  
自分たちのやりたいことが  
地域にも還元できるように

ひとり目の子どもが生まれるタイミングで、より環境が良いところで子育てと、ものづくりをしていきたいということで、移住を決断。その際に色々な場所を探しましたが、結局、良い物件があったことから稲武に。決して「稲武が最高」という前提で探していたわけではなく、むしろ予備知識も持たずに引越して11年。知美さんのお腹にいた子ども今では小学生6年生、立派な稲武っ子に育ちました。

遊び場がなければ、自分たちで生み出せば良いという考え方。「ドンドン遊びを開拓していくことで、外から見ている人も「おもしろそう」と遊びに来てくれて、さらに仲間が増える。稲武に来てから、その積み重ねで輪が広がっています」と周平さん。暮らすように遊んでもらいたい、稲武の魅力をもっと深く知ってもらうために、今春には山を楽しむ複合施設『hibi』をオープン。横には名倉川があり、SUPやテントサウナなど、既に新しい遊びが色々開拓されています。

「山あいの町ですが、稲武は色々アクセシビリティと魅力」と知美さん。この地域はスキー場や温泉も近く、仕事で名古屋へ行くこともできます。様々な遊びがあるから、稲武にこもっている感じはありません。「こんなご時世ですけど、人と会うとやっぱり元気になれるし、色々なことを教えてもらえるから良いですね」。

一番大事なことは、自分たちがやりたいかどうか。それを地域の人に喜んでもらう

## PLACE

### 大井平公園



「稲武の豪農・古橋家ゆかりの公園。夏にはホテルが乱舞し、秋は紅葉の名所として有名です。四季の移り変わりを楽しめます。また“風のつり橋”から眺める名倉川もオススメです」

☎ 0565-83-3200 (いなぶ観光協会)  
📍 愛知県豊田市稲武町大井平道下2-1

## PLACE

### すえひろ家



「『ヒトトキ-人と木-』の近くにあるオススメ店。昔ながらの天日干し麺で、つるつと滑らかなのと越しが魅力です。中でも、地粉を使ったきしめん（販売のみ）がお気に入り。何と88cmの一本麺も！」

☎ 0565-83-3104  
📍 愛知県豊田市武節町田ノ洞214-1

## THINGS

### たばこや商店



「手作りの味を提供する総合食料品店。『たばこ屋』という屋号の由来は、以前こちらでタバコの葉を刻むことを生業にしていたから。自家製のコロツケや唐揚げをはじめ、お惣菜コーナーが充実。いつもできて、揚げたてでみんなに愛されている稲武のソウルフードです」

☎ 0565-82-2160  
📍 愛知県豊田市武節町屋敷179-1



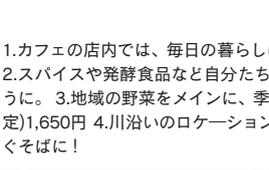
「2009年に長男が誕生してから4ヶ月の時、突き動かされるままに稲武への移住を決断。2006年に開業した家具工房も、稲武の新天地で再スタート」



「2015年『ヒトトキ-人と木-』をオープン。リノベーションは自らい、内装には稲武の木を使用。ウッドデザイン賞2018ソーシャルデザイン部門受賞」



「2021年にアトリエ・B&B・多目的スペースを融合した山を楽しむ複合施設『hibi』を開業。街をめぐりながら暮らすように過ごす“泊まれる家具屋”です」



家具工房ならではの質の高い設え。温泉で癒されたり、山里の料理を楽しんだり『hibi』がまちめぐりの拠点。

て還元できる仕組みを考えながら、試行錯誤。例えば地元の木を使った製品を作ることで稲武の自然についてもっと深く知ってもらおうとか、食事だったら地元産や生産者の顔がわかるものを提供したり。「使った人、食べた人の生活にとって、新たなきっかけ作りになれば…。すると不思議なもので皆さん応援してくれました。逆に応援されないことは続かないと思います」（知美さん）。

帰ってくる場所は稲武でありたいし、あってほしい。稲武には高校がないため、中学を卒業すると下宿で稲武を離れることも多く、それでも、いつか戻ってきたいと心から思える場所に…。「親が楽しんでいる姿を見せれば、帰ってくる選択肢はあると思います。色々な大人がいて、色々な生き方があって、色々な選択肢があって、そのひとつの選択肢に稲武へ帰ることがあってほしい。今の大人たちが楽しんでいる姿を見ることが、これからの稲武にとって大切なことだと思います」（周平さん）。

## HISTORY

